

平成 24 年度 第 2 回 下水道における ICT 活用に関する検討会

議 事 概 要 (案)

1. 日 時 平成 25 年 2 月 6 日 (水) 16 : 00 ~ 18 : 00
2. 場 所 財団法人下水道新技術推進機構 8 階中会議室
3. 出席者 山田座長, 新井委員, 石川委員, 石原委員, 円城寺委員, 岩崎代理委員, 小松委員, 薩川委員, 菅本代理委員, 棚橋委員, 前田委員, 森田委員, 壁谷オブザーバー, 小林オブザーバー, 山元代理オブザーバー, 渡部オブザーバー
(欠席: 下山田委員, 河合委員, 櫻井オブザーバー)

4. 概要

(1) 下水道事業における課題 (ニーズ) の整理

事務局より資料説明を行った。

委員: 「不明水調査」に関する課題を、ICT による課題解決に想定される候補としてほしい。

委員: 「他自治体の成功事例が知りたい」が個別の課題となっているが、これは課題全体について言えることである。成功事例を Web 上で共有してデータベースができれば、それも ICT の利用である。

委員: 成功事例を集めることのほか、失敗事例についても集めることが大事である。大きなトラブルが起きる前の小さなトラブルのようなヒヤリハット事例も有用である。

委員: 失敗があった場合に、ネット上からリアルタイムでアドバイス等もらえるというような仕組みを作ることが望ましい。ソーシャルネットワークのようにリアルタイムで意見交換できると良い。

委員: ワークショップ参加の 7 自治体の意見だけで課題をまとめてよいのか。広く意見を募った方がよいのではないか。

事務局: 課題の大半の項目は、重なっていることが多いため、少ない自治体へのヒアリングであっても、主要な課題は網羅できていると思われる。シーズの提案の結果を待つて再度提案をしていくということにしたい。

委員：放流水の品質の確保などの運転管理の質を上げることについて ICT の活用で解決できる課題に追加してほしい。また、運転管理のノウハウをいかに見える化するか、ICT を活用して解決できれば良い。

委員：包括的民間委託が進んでいるが、今回の課題の報告では、委託を受けている処理場等の運営を行っている民間企業の課題意見が反映されていない。また、委託した自治体にも監理責任があるため、委託者としてどの程度運転管理情報を把握する必要があるか検討することも重要である。

委員：包括的民間委託業者との情報を交換するうえでのセキュリティの点についても検討を行ってほしい。

委員：複数町村で広域連合や組合などを作って広域的に施設管理するという事は、データを一元管理しなければならないという課題につながる。そのために ICT の活用が必要になってくる。「広域化の検討」についても ICT の活用により解決できる課題として検討を行う方向で考えてほしい。

委員：施設の統廃合の検討を行うにあたっては、投資の判断など中長期的な経営の観点も必要になってくる。そのために、資産管理や情報分析などの ICT の利活用が必要であることから、「施設の統廃合」も ICT の活用により解決できる課題としてほしい。

委員：課題の内容はソフト的なものが多いが、「遠隔制御による運転管理」というハード的な内容も追加してほしい。

委員：料金徴収の際に、排水量をセンサーにより計測して下水道使用料を算定するという活用もあると思う。下水道において個別の顧客管理システムを持つ必要があるのかどうか検討が必要であるが、顧客管理に関する課題も経営マネジメントの検討事項の中で検討を行ってほしい。

委員：下水道以外の他の業界の技術についても応用できるのではないか。他事業者の管理方法などの成功事例を応用できる可能性もある。オープンデータの考えに基づき情報を共有することにより、下水道事業の情報と他事業の情報が相互利用できるようになることが望ましい。これにより、過去のデータや知恵を利用する範囲が広がり、管理全体のコストを下げることも可能になる。

委員：下水道の溢水箇所の情報などは、下水道管理者だけでなく、道路管理者や警察、学

校なども有している。下水道事業に対するニーズについては、他部局や事業体にヒアリングすることで把握できることもある。

委員：下水道事業における情報公開について、水位やポンプ場などのリアルタイム情報を公開・提示しているという事例もある。逆に、他分野の情報を取り入れ、双方向に情報を利用することも検討する必要がある。

(2) ICT（シーズ）の整理方針

- ・事務局より、パブリックコメントにより、ICT（シーズ）による課題解決手法を広く一般から公募することを提案した。

(5) その他

- ・次回検討会は3月13日に開催することを予定。

以上